

田中酒造株式会社亀甲蔵

- 物件名：田中酒造株式会社亀甲蔵
- 住所：信香町2-2
- 電話：21-2390
- 所有者：田中酒造株式会社
- 主任と人員：店長 中島 徹、20人
- 建物履歴
 - 明治35～38年 岡崎倉庫として創建
 - 昭和28年 三代目田中市太郎取得し酒造場へ
 - 平成8年 田中酒造株式会社亀甲蔵・小樽市歴史的建造物指定
 - 平成9年 小樽市都市景観賞受賞



外観

■外観

- ①小樽軟石と札幌軟石／指定による補助金を受け、小樽市都市デザイン課や専門家の指導により石材（札幌軟石）と厚さを復元。取得時には現臨港線部分にも倉庫があったが、道路拡幅により切り取られ、現存はその3分の2となっている。
- ②駐車場／元々は酒造りは冬、観光客は夏に集中していたが、両方の都合を解決するため、通年製造を実現したことにより、石造倉庫以外の製造場建物を更地にして駐車場に。

■内観

- ①石壁の露出／石壁をそのまま露出。
- ②木材の工夫／明治の創建時の板材はそのままとし、それ以外は剥がしてオイルステン加工によって古式を再現。
- ③2階床／2階床には防音・防寒のために板材を強化し消音床材を敷く。
- ④工場／残存倉庫3棟のうち2棟を製造場とし、製造場見学のための整備、温度に敏感な酒造作業を考慮して断熱材を整備、水を多用することから防水壁の整備をしている。

■内容

三代目田中市太郎がこの物件を取得した目的は第一に勝納川の伏流水を利用できるためだった。勝納河口であるこの地は小樽発祥の地。明治14年の大火によって、勝納流域の集落は堺町や色内に移る。岡崎倉庫の創業者である岡崎謙が北前船ビジネスによって、倉庫を創建する明治35年はこの地にも再開発の鍬が入れられる。

■コンセプト

- ①道産米使用の徹底／昭和63年に就任した四代目田中一良は平成10年から、全て道産米使用の方針を掲げ、本物の北海道の地酒造りの実績を蓄積。苫小牧市の地酒「美苫」は厚真町の米と苫小牧市の水、積丹町の地酒「丹水」は後志の米と積丹町の水、ニセコ町の地酒「蔵人衆」はニセコ町の米と水など。平成19年の全国新酒鑑評会（酒造総合研究所主催）、ニセコ産米と小樽の水とを使用して仕込んだ「大吟醸宝川」が金賞を受賞。
- ②酒造技能士集団／正社員の条件に酒造技能士資格を付し、現在30名の資格取得者がいる。専門家集団として地酒の良さを伝えている。
- ③エンターテインメント性の強化／12月「行く酒来る酒」、2月「どぶろく祭」、5月「梅酒祭」、7月「トマト祭」、10月「ヤーコン祭」などの地域の活性化に役立つことを目的とする催事を実施。

■客層

市内10%、札幌圏50%、道外20%、外国20%で老若男女。



工場



見学窓

田中酒造株式会社亀甲蔵



明り取り窓



下屋



石壁・梁・碇子引き配線を生かした店内



見学用通路



バリアフリー用電動昇降イス



2階見学通路